

# んぽん舗

ポツ



224号

2022年4月

[発行元]

石巻市NPO支援オフィス  
〒986-0832 宮城県石巻市泉町3丁目1-63  
TEL・FAX 0225-23-3641  
MAIL: centerishinomaki@gmail.com  
http://ishinomakinposhienoffice.jimdo.com/  
開館時間: 月～金 10:00～20:00  
土曜日 10:00～18:00  
休館日 日曜・祝日・第四木曜日

毎月25日発行

NPOや市民活動に  
役立つ情報をお  
届けします。  
みなさまからの  
情報提供もお待ち  
しております。



## ピックアップんぽ

## 登録番号 200 まちづくりNPOげんき宮城研究所

代表理事: 門間光紀さん

まちづくりNPOげんき宮城研究所・門間さんには、んぽん舗193号(2019年9月)に初めて取材させていただきました。「稲むらの火」を使用した防災・減災教育の啓発活動。活動の一つである「小泉八雲を読む会」へるんサロンin石巻は82回目を迎えました。(R4.3.12時点)



ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)は、1850年6月27日にギリシャ西部のレフカダ島で生まれました。父はアイルランド出身の軍医、母はギリシャ・キシラ島の出身。

今回は会員のみなさんに小泉八雲の魅力をお聞きしました。



最初は小泉八雲=怪談という程度の認識でした。有名な作品は耳なし芳一ですね。怪談話ばかりでなく、ジャーナリストとしての八雲もまたすごいと思います。日本を見る目線がすごいです。その時代、外国から来て東洋の遅れた国日本という概念なしに見ています。

小泉八雲を全然知らなかったんです。お誘いを受けて入会してから色々なことがありました。未裔の関係各所へ行って、なんとなく何かは覚えます。八雲の文章がきれいで、それを翻訳する方もすごいと思いました。例えば「死にました」を「永遠のねむりにつきました」と表現しているところは素敵ですし、想像力が豊か、そしてわかりやすいです。



震災後から入会しました。子供の時、耳なし芳一や雪女ぐらしか知らなかったです。高校の時、松江に行ってお話を聴きました。その後、みちのく八雲会を知り日本語の美しさにびっくりしました。

八雲は蛇やカエルなどをこよなく愛し、『かそけき者(弱いもの)たちの声をきく』を買った人です。

私も雪女と耳なし芳一しか知りませんでした。新聞で小泉八雲の会の存在を知り今日に至ります。横浜から松江に辿る物語を見て興味が沸いたのと、みなさんのお話を聴きながら、だんだんハマってきました。



代表理事 門間光紀さん

みちのく八雲会設立から20年が経ちました。私が広島在住の頃、八雲のひ孫である小泉 凡さんとの出会いが始まりです。54歳でその生涯を終えた八雲が生前訪れたいと思っていた場所が、長野県にある善光寺と宮城県奥の細道(松島)。地域と時空を超えて八雲が来たかった想いを受け止め、楽しいことをやろうよ! ということで集まりました。



小学国語読本 巻十より「稲むらの火」

「稲むらの火」の原作は1854年(嘉永7年/安政元年)の安政南海地震津波に際しての出来事をもとにした小泉八雲による作品です。稲むらに火をつけた時や高台に立っていたときの「五兵衛」の気持ちについて考えると、防災・減災について様々な思いが導き出される作品だと思います。(裏面へ続く)



一人でも多くの人に知ってもらうため、DVDを観てもらい、関心を持ってもらい、家族でそのことを話す機会を持ってほしいと思います。情報から始まる防災・減災は行動を起こすまで徹底しないと意味がなくなります。その一つのアイテムが「稲むらの火」です。また、災害はいつ、どこで起こるかかわからないので、自宅での備えだけでなく、外出時を想定した備えも大切です。



八雲は異文化を理解する目線を持っていました。  
キーワードは「オープンマインド」です。

問・申込:まちづくりNPOげんき宮城研究所  
電話:090-7526-7826(もんま)

〇みちのく八雲会に入会したいという方へ  
八雲に関心のある方、参加したい方、当日参加も大歓迎です。  
参加料は資料代として500円をいただきます。

～小泉八雲を読む会～ へるんサロンin石巻  
日時:毎月第二土曜日 10:40～12:10  
会場:石巻市NPO支援オフィス 会議室



## 取材報告

3月26日(土)、矢本西市民センターにて行われた生涯発達支援塾TANEさんによる書道塾taneの墨遊び体験会に参加させていただきました。

“墨と紙と筆で楽しむ”をモットーに、テーマはなく、心のままに墨で遊ぶ!!体験です。まずは、筆選び。書道の筆・割りばし・わら・絵筆など様々。使われている毛もたぬき、うま、いたち、ひつじと種類豊富です。紙も色違いや大小様々なものが準備されていました。墨遊びが始まる前から既に「自分で選ぶわくわく」という遊びが始まっているかのようでした。



書道塾taneは“移動型書道”として石巻では月1～2回、耕人館とかわまち交流センターなどにて定期的に開催しています。今回、東松島市は初開催でした。「誰でも調子に乗れる書の時間を体験してほしい」と語る代表の櫻井さん。誰かと比べることなく、なにを書いてもいい、好きな字を書く、そんな空間はなかなか無いものです。「感情表現は疑似的にでも出した方がいいです。それが人によっては書道だったり、演劇だったり。なんでもいいんです。」ともおっしゃっていました。



対象は子どもから大人まで特に制限はありません。  
お手本となる決まった字が無く、スキルアップが目的でもない、好きなところから入っていく書の時間です。筆の種類、持ち方、力加減で紙に表される字も形も幾通り。『表現の楽しさ』を味わってみてください。

生涯発達支援塾TANE  
HP



櫻井育子  
webサイト



代表 櫻井育子さん  
宮城県石巻市出身。特別支援教育士。  
書道師範。「生涯発達」の視点から教育、  
福祉を考えるコーディネートチーム  
「TANE」を主宰。

ど根性ひまわり12世用の種袋の挿絵が完成しました。いただいた11世の笑顔写真から選びました。4月から種袋作成、袋詰めしてまもなく配布開始します。



ご協力:がんばろう!石巻の会

## 石巻市NPO支援オフィス

電話・FAX:0225-23-3641

メール:centerishinomaki@gmail.com



ホームページ



いしのみき  
NPOセンター  
YouTubeチャンネル